

POWERED BY **Dialog**

Voice conference table apparatus - has rail unit at centre of conference table, cord housing member and groove engaging unit in microphone NoAbstract Dwg 2/4
Patent Assignee: FUJITSU LTD

Patent Family (1 patent, 1 country)

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Update	Type
JP 62211010	A	19870917	JP 198655329	A	19860312	198743	B

Priority Application Number (Number Kind Date): JP 198655329 A 19860312

Patent Details

Patent Number	Kind	Language	Pages	Drawings	Filing Notes
JP 62211010	A	JA	4		

International Patent Classification

IPC	Level	Value	Position	Status	Version
A47B-0021/00	A	I	L	R	20060101
A47B-0021/06	A	I	L	R	20060101
A47B-0037/00	A	I	F	R	20060101
H04R-0001/06	A	I	L	R	20060101
A47B-0021/00	C	I	L	R	20060101
A47B-0021/06	C	I	L	R	20060101
A47B-0037/00	C	I	F	R	20060101
H04R-0001/06	C	I	L	R	20060101

Original Publication Data by Authority**Japan**

Publication Number: JP 62211010 A (Update 198743 B)

Publication Date: 19870917

Assignee: FUJITSU LTD (FUJIT)

Language: JA (4 pages)

Application: JP 198655329 A 19860312 (Local application)

Original IPC: A47B-37/00 H04R-1/06

Current IPC: A47B-21/00(R,I,M,JP,20060101,20060310,A,L) A47B-21/00

(R,I,M,JP,20060101,20060310,C,L) A47B-21/06(R,I,M,JP,20060101,20060310,A,L) A47B-21/06

(R,I,M,JP,20060101,20060310,C,L) A47B-37/00(R,I,M,JP,20060101,20060310,A,F) A47B-37/00

(R,I,M,JP,20060101,20060310,C,F) H04R-1/06(R,I,M,JP,20060101,20060310,A,L) H04R-1/06

(R,I,M,JP,20060101,20060310,C,L)

Derwent World Patents Index

© 2007 Derwent Information Ltd. All rights reserved.

Dialog® File Number 351 Accession Number 4189364

⑫ 公開特許公報(A) 昭62-211010

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)9月17日

A 47 B 37/00
H 04 R 1/06

3 2 0

Z-6850-3B
7314-5D

審査請求 有 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 音声会議用会議卓

⑯ 特 願 昭61-55329

⑰ 出 願 昭61(1986)3月12日

⑱ 発 明 者 大 内 哲 世 川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内
⑲ 発 明 者 佐 藤 晋 川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内
⑳ 発 明 者 中 山 正 昭 川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内
㉑ 出 願 人 富 士 通 株 式 会 社 川崎市中原区上小田中1015番地
㉒ 代 理 人 弁 理 士 井 桁 貞 一

明 細 書

1. 発明の名称

音声会議用会議卓

2. 特許請求の範囲

卓上に設置されたレールユニット④と、該レールユニット④に係合する溝(51)を形成してスライド可能なマイクロフォンユニット⑤で構成し、

前記レールユニット④内にはマイクロフォンユニット⑤のコード(4)を收容し、かつ該コード(4)を挿通する断面がU字状のコード收容部材⑥を、前記マイクロフォンユニット⑤のスライド方向に沿って併設するとともに、

前記マイクロフォンユニット⑤にはコード(4)を挿通するレバー⑦を付設したことを特徴とする音声会議用会議卓。

3. 発明の詳細な説明

(概要)

本発明は遠距離間で会議を行なう音声会議用の会議卓であって、卓上の略中央部に複数のマイクロフォンを移動可能に係合するレールユニットを設置し、レールユニット内に断面がU字のコード收容部材をマイクロフォンの移動方向に設け、マイクロフォンにはレールユニットに係合する溝と、マイクロフォンのコードを挿通するレバーを付設したものである。

(産業上の利用分野)

本発明は、遠距離間で会議を行なう音声会議用の会議卓に係り、とくにマイクロフォンを移動可能に係合するレールユニットを設置した音声会議用会議卓に関する。

近年、電子通信の飛躍的な進歩に伴って、電話回線を用いて遠距離間で音声会議が行なわれる情勢になっており、先方の受信は室内等に設置されたスピーカで、送信は会議卓上のマイクロフォンで行なうようになっている。

〔従来の技術〕

従来の音声会議用会議卓は、一般に用いられる会議卓上に中継ボックス等を介して複数のマイクロフォンを自由に置か、或いはマイクスタンド等に取付けて、通話する人の前に移動する方法が採られている。

〔発明が解決しようとする問題点〕

上記従来の音声会議用会議卓にあっては、通話に用いるマイクロフォンを固定せず自由に移動できるので、その移動時に振動音が入る恐れがあるとともに、マイクロフォンのコードが机上で乱雑になるという問題点があった。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は、上記の問題点を解決して複数のマイクロフォンを移動可能で半固定状態とした音声会議用会議卓を提供するものである。

すなわち、卓上に設置されたレールユニットと、このレールユニットに係合する溝を形成して左右

にスライド可能なマイクロフォンユニットからなり、前記レールユニット内にはマイクロフォンユニットのコードを収容し、このコードを挿通する断面がU字状のコード収容部材を、前記マイクロフォンユニットのスライド方向に沿って併設するとともに、前記マイクロフォンユニットにはコードを挿通するレバーを付設したことによって解決される。

〔作用〕

上記音声会議用会議卓は、会議卓の略中央にレールユニットを設け、このレールユニット内にコード収容部材を付設するとともに、マイクロフォンユニットにはレールユニットに係合する溝とコードを挿通する溝を設けて嵌合し、所定位置に移動可能であるので、机上のスペースファクタが良好となる。

〔実施例〕

第1図は、本発明の一実施例を説明する外観斜

視図である。

図において、会議卓1上の長手方向の略中央に金属例えばアルミ板等をコの字状に折り曲げ形成したレールユニット2を、開口部を上方にして固定し、このレールユニット2内の長手方向の中央に可撓性の金属たとえば焼青銅板等を断面がU字状で開口部を絞った第3図で説明するコード収容部材6を開口部を上方にして、前記レールユニット2と一体的に取着する。

そうして、第2図で説明するマイクロフォンユニット5を複数個、前記レールユニット2に係合し位置を決めて半固定する。そしてコード4をコード収容部材6に収容して会議卓の端部から中継ボックスに接続され、図示しない送信機に入力する。

第2図は、本発明のマイクロフォンユニットを説明する図で、同図(a)は側面図、(b)は正面図である。

図において、マイクロフォンユニット5の裏面の両端部に第3図に示すレールユニット2の開口

部両縁に係合する溝51を形成するとともに、一端にコード4を挿通する孔71を形成したレバー7を付設し、孔71にマイクロフォンユニット5のコード4を挿通し、コード4は第3図で説明するコード収容部材6にレバー7とともに収容される。

第3図は、本発明のレールユニットとコード収容部材を説明する図で、同図(a)は要部側面図、(b)は正面図である。

図において、金属例えばアルミ板等をコの字状に折り曲げ形成したレールユニット2内の長手方向の中央に、可撓性の金属たとえば焼青銅板等を断面がU字状で開口部を絞ったコード収容部材6を開口部を上方にして、前記レールユニット2に取着し、このレールユニット2は第1図に示したように会議卓の長手方向の中央部に装着する。

第4図は、レールユニットにマイクロフォンユニットを取着した図で、同図(a)は要部側面図、(b)は正面図で、第2図、第3図と同等の部分については同一符号を付している。

図において、レールユニット2内の長手方向の

中央に、コード収容部材6を開口部を上方にして取着し、前記レールユニット2の開口部の両縁にマイクロフォンユニット5の溝51を嵌合するとともに、裏面に付設したレバー7をその一端に形成した孔71にコード4を挿通した状態で前記コード収容部材6に挿入する。

なお、本実施例ではマイクロフォンユニット5を3個用いた説明をしたが、中継ボックス3は8個まで使用が可能である。

(発明の効果)

以上の説明から明らかなように、本発明によれば会議卓上におけるマイクロフォンユニットの配置が整然と行なえ、机上のスペースファクタが向上し、音声会議に極めて有効である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の一実施例を説明する外観斜視図、

第2図は、本発明のマイクロフォンユニットを

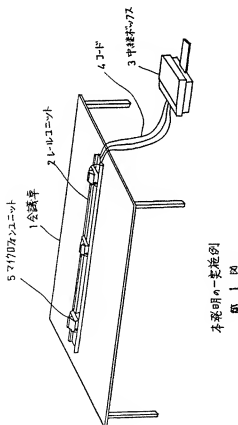
説明する図で、同図(a)は側面図、(b)は正面図、

第3図は、本発明のレールユニットとコード収容部材を説明する図で、同図(a)は要部側面図、(b)は正面図、

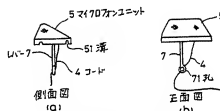
第4図は、レールユニットにマイクロフォンユニットを取着した図で、同図(a)は要部側面図、(b)は正面図である。

図において、1は会議卓、2はレールユニット、3は中継ボックス、4はコード、5はマイクロフォンユニット、6はコード収容部材、7はレバー、51は溝、71は孔、をそれぞれ示す。

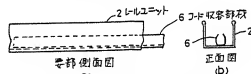
代理人 弁理士 井桁 貞一



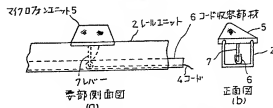
本発明の一実施例
第1図



本発明のマイクロフォンユニット
第2図



本発明のレールユニットとコード収容部材
第3図



レールユニットにマイクロフォンユニットを取着した図
第4図